

# NEWS LETTER

## 一般社団法人島根県助産師会機関誌

### NO.31



島根県助産師会の皆様には、益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。日頃より当会の運営につきましましては、ご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

先般4月29日、公益社団法人島根県看護協会会長、池田康枝様のご臨席を賜り、また会員の皆様の多数のご参加をいただきまして、令和8年度通常総会を無事に終えることができました。ありがとうございました。

社会環境の変化が加速する中、私たち助産師の職務は、生命の誕生の瞬間に立ち会うことはもとより、女性のライフステージ全体へのケアも求められております。また、昨今、思春期からのプレコンセプションケアにつきましても助産師の担う役割は大変重要となっております。4月28日には、出産無償化、保険適応との医療改革法案が衆院の本会議を賛成多数により可決いたしました。このことについてはまだまだ論議されることがありますが、私たち助産師も注視してゆく必要があると感じております。

その中で島根県助産師会としましては、県の委託事バースデープロジェクトによるいのちの楽習出前講座・こころバースデー講座の13年目の継続、思春期専門相談事業としての助産師ダイアルの365日の継続、委員会活動として研修員会は、総会当日、島根県立大学看護栄養学部渡邊克俊先生の対面での大変わかりやすく、楽しく学ぶことのできた対面での研修会を含め、4講座を9月中旬から10月31日までオンデマンド配信による研修会を行います。知識のブラッシュアップはもとより、アドバンス助産師の新規取得・更新、産後ケア実務者研修の取得にご活用いただきたく思います。

また安全対策委員会は、インシデント・アクシデント報告の事例検討や、助産師業務安全管理評価表の実施を行う計画です。今年度は評価の形式を他者評価として実施することが、日本助産師会安全対策委員会、保健指導部会により検討されております。

産後ケアにつきましましては有害事象が散見される中、3月30日こども家庭庁より産後ケアガイドラインの改訂版が発出されました。改訂されたところは重大事案発生時の対応方法が記載されております。皆様もぜひご確認くださいませようお願い申し上げます。

災害対策委員会では、本年1月6日に発生しました島根県東部を震源とする地震に際して、理事の皆様のご確認により、速やかに会員の皆さまの安全が確認できました。来年2月には災害時安否確認も行います。ご協力をお願いしますとともに、HPに掲載しております島根県助産師会災害対策マニュアルの今一度のご確認をよろしくお願い申し上げます。

最後に、今年一年が会員の皆さまにとって有意義で実りのある一年となりますよう心よりお祈りいたします。

2026年5月吉日

### 安心なお産サポート

～妊娠から産後まで、丁寧に寄り添うチーム医療～

島根県立中央病院 黒田優子



#### 1. 安心して出産を迎えるために

島根県立中央病院では、地域周産期母子医療センターとして妊娠 35 週以降の分娩を受け入れ 5 階西（母性）病棟を中心に、妊婦さんご家族が安心して出産に臨める環境づくりを進めています。約 40 名の助産師が外来と病棟で助産ケアを提供し、助産師・医師・看護師・社会福祉士・臨床心理士など多職種が連携してサポート体制を整えています。「妊娠期の不安や疑問に寄り添い、出産、そして産後の生活まで、切れ目なく支援し、『ここで産んでよかった』と思っただけのケアを大切に、妊娠から産後まで一貫した温かな支援を提供しています。

#### 2. 助産師が中心となる院内助産システム（結-YUI-）

経過が順調な妊婦さんを対象とした院内助産システム「結-YUI-」では、助産師が妊娠期から出産、産後ケアまで継続して担当し、外来と病棟を一元化した体制のもと、妊婦さんの思いに寄り添うケアを実践しています。アットホームな雰囲気の中で自然なお産をサポートしつつ、医師との連携により万が一の際にも迅速に対応できる安全体制を整えています。

2019 年の開始以来、現在までに 329 例の妊婦さんが『院内助産（結-YUI-）』で出産され、「自分らしいお産ができた」「助産師さんがそばにいて安心できた」といった満足の声が寄せられています。



〈助産師外来〉



院内助産 300 例超す 島根県立中央病院 専門性高いサポート好評

#### 3. 母子の笑顔のための取り組み

病棟では、妊娠期から産後までの包括的支援を強化するため、助産師が専門資格を取得し、骨盤ケアやマタニティヨガ、アロマテラピー、産後のベビーマッサージなど、さまざまな教室を開催しています。

また、食事面でも意見を出し、産後のおやつメニュー改善に取り組むほか、ブラジル出身の妊婦さんの増加に合わせてブラジル風お祝い膳を提供するなど、多様な患者ニーズに応じた工夫を行っています。



〈マタニティヨガ教室〉



〈アロマテラピー教室〉



〈ベビーマッサージ教室〉



〈ブラジル風お祝い膳〉



〈産後の手作りおやつ〉

#### 4. 家族も一緒に安心できる環境づくり

出産は家族にとっても大切な時間であるため、家族が安心して関わられるよう、丁寧な説明や面会の工夫、育児参加のサポートにも力を入れています。妊娠中にはお父さんやおばあちゃんも参加できる育児体験教室を実施し、産後には家族を含めた育児指導を行うことで、「家族みんなで赤ちゃんを迎える」気持ちを大切にしています。希望者には退院後早期の産後訪問も行っています。さらに出雲市・雲南市からの委託を受け、生後4か月までの母子を対象としたデイケア型・宿泊型の産後ケア事業も実施しており、利用者は年々増加しています。



〈産後訪問〉

#### 5. 多職種連携による安全体制の強化

周産期医療は多職種連携が極めて重要であり、当院では「安全であること」を前提に「安心できるケア」を実現するための体制を整えています。産科医・助産師・看護師による24時間体制をはじめ、小児科医・麻酔科医との迅速な連携、異常の早期発見を目的とした院内プロトコルの整備、緊急帝王切開や出血対応などのシミュレーション教育の実施、退院後の地域助産師・保健師との情報共有など、正常分娩からハイリスク妊娠まで幅広く対応できる仕組みを維持しています。



#### 6. 地域周産期医療への貢献

島根県の周産期医療を支える基幹病院として、地域の医療機関や行政と連携し、災害拠点病院としての周産期医療体制の確保や、教育・研修の受け入れによる人材育成にも取り組んでいます。地域全体で妊産婦を支えるネットワークづくりを進めることで、より安心できる地域医療の実現を目指しています。

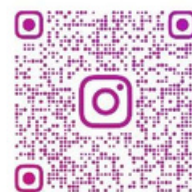
#### 7. 安全と安心を両立する周産期ケアへ

助産師の専門性を活かした院内助産、多職種連携、病棟のケア拡充を通じて、妊産婦と家族が安心して出産を迎えられる環境を整えており、今後も地域の周産期医療を支える中核病院として、安全性・満足度・専門性の向上を目指して取り組みを続けていきます。



当院の助産師会勤務部会の会員は16名です。

バースデイプロジェクト等に積極的に参加し、助産師会の地域の活動を楽しんでいる方もたくさんいます。今後は、そのような輪を広げ、助産師会で活躍する仲間を増やしていきたいと思えます。



SHIMANE\_KENCHU\_SUKOYAKA

# 02 施設助産師だより

## 安心して産み、育てられる地域づくりを目指して

### 【当院と産婦人科部門の概要】

当院は、大田二次医療圏の中核を担う、229床のケアミックス型病院で、急性期から包括期までの医療を提供しています。助産師は12名が在籍しています。産婦人科を含む病棟は、女性混合病棟として運営し、外来と病棟を一元化しています。助産師8名と看護師18名が産婦人科外来と女性患者混合病棟の両方に関わっています。スタッフが一貫して関わることは、妊娠期から産褥後までの継続した支援へとつながっています。令和7年の分娩件数は147件と減少傾向にありますが、その中でも一人ひとりに寄り添ったケアの提供を目指しています。

### 【助産師外来の取り組み】

現在16週・26週・32週・36週の妊婦を対象に保健指導・エコーを実施しています。妊娠週数の確認に加え、出産・育児に向けた不安の軽減に努めています。1時間枠で実施し、その方にあった保健指導や出産に向けた支援を行っています。また、必要に応じて医師外来へつなぐ役割も担っています。妊娠期から十分な時間を確保し、出産への安心感を高め、より満足度の高いお産につなげていきます。助産師外来は、私たち助産師にとっても、エコー技術の習得ができ、分娩時にはその進行をより安全に把握できるなど、日々の実践に活かされています。利用された方からは、「ゆっくりと話を聞いてもらえて安心した。」「出産に対する不安が軽くなった。」「自分にあったアドバイスがもらえてよかった。」「医師に話しづらいことが相談できる。」という声を聞きます。こうした声は、私たちの励みとなり、助産師としての存在価値とやりがいを感じ、日々の原動力へとつながっています。

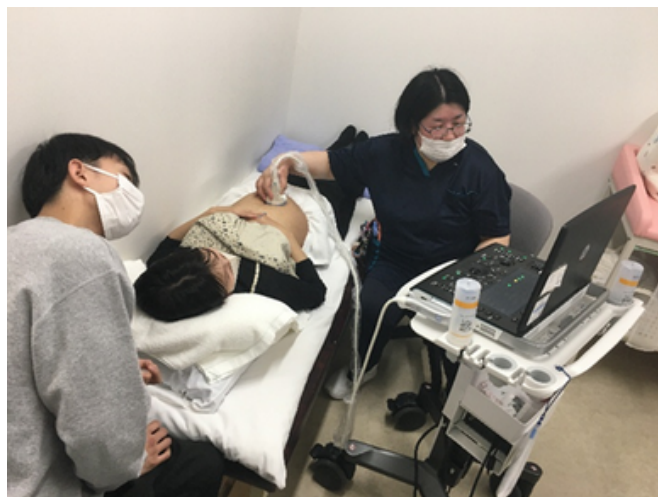
### 【病棟での協働】

妊婦・産婦・新生児に関しては、毎週、産科・小児科・看護スタッフによる合同カンファレンスを行っています。妊娠中から出産・退院後を見据えた支援体制を整えることで、母子双方の安全確保に努めています。出産前には、医師を含めたスタッフ全員でバースプランの共有と分娩ブリーフィング用紙にて事前の確認を行っています。妊婦の思いを大切にしつつ、急変にも迅速に対応できる体制を整え、安心して出産に望める環境づくりを目指しています。

### 【地域との連携】

年4回、市の子供家庭支援課と会議を開催しています。妊娠期から産褥期までの母子支援について、保健師と情報共有しながら、連携して母子を支えています。得られた情報は、通院や入院中のケアに活かしています。また、保健師は病院からの情報をもとに、地域での支援体制を整えています。地域全体で母子を支えていくことの大切さを実感しています。

### 大田市立病院 谷口修子



# 03 地域助産師だより

## 東部開業助産所 ~まちのほけんしつonwa~杉原恭子

私は、総合病院の病棟・外来助産師時代に「退院後、助けてくれる人がいるかな」「総合病院では、いつでも相談しにおいでとは言えないな」というジレンマを抱えていました。そこで「お母さんたちの近くで寄り添いながらケアしたい!」「地域で助産師が気軽に相談にのれる場所をつくりたい!」「産後ケアをしたい!」という思いで7年前に退職し地域助産師として活動を始めました。

その後、地域で活動するなかで「お母さんが育児休暇を終えて復職されると助産師が支援することは難しくなるな」「お母さんの職場だけでなく、夫の職場も含めて理解をしてもらわないと子育てしやすいとは言えないのではないか」「いろいろな視点からその家族をサポートしていく必要があるな」と考えるようになりました。そこで「復職された後の子育ての場に助産師が入ってサポートしよう!」「企業(職場)に子育てサポートとして業務委託をしてもらおう!」「多職種が連携しながらサポートできる仕組みを作ろう!」と考え、動き出しました。

そのような思いをもちながら、株式会社の助産師として<まちのほけんしつonwa>を始めて4年目を迎えます。現在は助産師2名でサポートを行っています。施設は畳のある古民家で、お母さんがほっと一息できるような空間です。そこで「わたらしい」「わたしたちらしい」「わたしたちのこどもらしい」のサポートを目指して母子ケアを行っています。具体的には助産師ケアとして乳房ケアや各種教室を行ったり、出雲市の委託を受け産後ケアを行っています。産後ケアが終了してもonwaのメニューを利用して相談やリフレッシュに来られるお母さんも増えています。また、年齢性別に関係なく、子育て・健康・家族相談などをお受けしています。



そして、産後復職されたお母さんやそのご家族のサポートとして始めた企業顧問助産師は、「安心して暮らせる地域づくり」のため企業(職場)と連携をとり、サポートを行っています。WORKとLIFEのバランスをとりながらいきいきと仕事ができることを目指し、職場と職員の間に入って育児休暇前から産後・復職までを支援しています。現在は企業からの依頼もあり、入職から3年目までを対象としWORK&LIFEバランスのサポート、職員全員を対象として健康サポートも行っています。助産師として年齢や性別を超えたサポートができることは楽しく嬉しく感じています。

育児をしながら元気に笑顔で過ごせるよう、少しでもその助けになればという思いで母子とその家族へのケアを行っています。「子を育てやすい」「子が育ちやすい」地域づくりに向けて、これからも頑張っていきたいと思っています。そして、『母子のみならず、女性の生涯における性と生殖にかかわる健康相談や教育活動を通して家族や地域社会に広く貢献する』助産師を目指していきたいです。



# 04 地域助産師だより

西部開業助産所 たばら助産院

田原恭子



益田市安富町でたばら助産院を開業して6年、  
現在は、益田市と津和野町の委託を受け滞在型・訪問型の産後ケアで年間約150組、  
また、ベビーマッサージのレッスンでは年間300組の母子に関わらせていただいています。

産後すぐの不安や戸惑いの中で、

「これでいいのだろうか」と感じるお母さんは少なくありません。

当院では、そうした想いに寄り添いながら、

育児や授乳のサポート、心のケアを大切にしています。

うまくいかなかった授乳が少しずつできるようになったり、

抱っこや関わり方に自信が持てるようになったり。

「一人では不安だったけれど、ここに来てよかった」

そんな声を多くいただいています。

なんでもスマホで検索できる時代

正解というものを探すお母さんは多く

正解を探しすぎてどうしていいのかわからなくなるお母さんもおられるので、

それぞれに合った方法を一緒に見つけていく、

「伴走者」として関わることを大切にしています。

また、ベビーマッサージ講師の育成や、

ママの心と体を理解する講座も行い、

子育てに関わる人の土台づくりにも力を入れています。

助産師、看護師、保育士、教員など多職種の方々が受講され、

助産師の視点や知識をそれぞれの現場での関わりで活用してくださっています。

子育ては一人で頑張るものではなく、

安心できる人や場所とつながることで、

もっとやさしく、楽しいものになります。

この益田地区にとどまらず、どこでも安心できる子育てができるよう

日々活動しています。



## 交流研修会を開催



バースデープロジェクト 佐々木真由美

令和7年度は、バースデープロジェクトがスタートして24年目、当初は数名だったメンバーも今では登録者62名となりました。勤務や家庭の都合、育児休暇中のために活動を休止しているメンバーもいます。嬉しいことに県全体で新しいメンバーが増え、今年度は53名で活動できました。各地に分散しており、年数回の実施者や経験年数の浅いメンバーもいます。そこで、講座の基本的な内容や配慮点などを共通理解し、皆が同じ講座内容と伝え方で提供できるように研修会を行いました。

<西部交流研修会 5月27日 益田市白石多目的集会所 参加者11名 >

\*思春期編の講座を思春期検討委員が実演と講義をし、その後に和やかに意見交換を行いました。



親睦を深め  
ました～

< 隠岐地区研修会 7月2日 参加者2名 >

\*本土から講座に出向いた際に個別で研修を実施し、日頃の離島の現状を聞いたり教材などを確認しました。直接、対面で隠岐のメンバーに伝えることができ、貴重な機会になりました。

<東部交流研修会 8月3日 出雲くすのきプラザ 参加者22名 助産師学生6名 子ども10名 >

\*メンバーの子どもたちも参加して、本番のように楽しく就学前編の講座を実演し、その後に講義と意見交換を行いました。



ますます  
パワーアップ!

私は長年、活動を続けていますが、慣れが生じ曖昧になってしまうことがあります。今回の研修会を通じて、初心に戻り講座内容を再確認することができました。また、久しぶりに多くの仲間たちに再会することで絆が深まり、活動を続ける上での原動力になりました。

時の流れは早いもので、発足当時に受講した子どもたちは成人になりました。成長過程の中で幾度と聞いた【いのちの楽習出前講座】を時に思い出して、プレコンセプションケアに活かしてもらえたら嬉しいです。

多くの方々とのご縁をいただき、メンバーと努力して築き上げてきたバースデープロジェクト、これからも心豊かに楽しみながら活動していきたいです。

## バースデープロジェクト西部地区から

### 交流会に参加して

向井咲恵

思春期の分野について、シナリオに沿って丁寧に教えていただき、とても理解しやすく貴重な学びの時間となりました。性の多様性やSNS時代の課題など、今後活かしていきたいと感じています。

まだ勉強不足ではありますが、少しでも力になれるよう努力していきます。皆さまのパワフルな姿に元気をいただきました。ありがとうございました。

山本喜久子

昨年、西部での交流会、はじめての開催でした。横に長い島根県、メンバーさんたちと話ができたらといつもおもっておりました。実際お会いできて、バースデーのコツを教えていただいたり、とても有意義な会でした。毎年は厳しいかもですが、また、開催できたらうれしいです。



三浦由香里

交流会に参加させていただきました。思春期の部分をととても丁寧に教えていただき、その後のバースデーを行う際に今までと違った意識で取り組むことができました。

学校ごとによって課題となる部分が違っており、シナリオの中でもどこをしっかりと伝えると良いのかという部分を考えることができました。

気づきが多い交流会でした。ありがとうございました。

新田昌子

微力ではありますがバースデー事業に参加させてもらっています。当院で生まれた子供さんや出産されたお母さん方との嬉しい再会に元気をもらい、命の大切さやつながりを実感しています。長年活躍されている東部の先輩方からの教えはとても学びが多く、パワーをいただきました。まだまだこれからだな、私も。頑張ります！

中島春奈

交流会に参加させていただきました。バースデーの活動を始めた当初は江津、大田に行かせていただいていたので、東部の助産師さんたちと関わることも多かったのですが、今は西部メインになり、関わりも少なくなり寂しく感じていました。なので交流会はととてもありがたい機会だと感じました。島根のようにこのような大きなチームで動いているところは数少ないと思うので、その一員として関わらせていただいていることをとても誇りに感じます。ありがとうございます。

菊次弥生

道具の取り扱いや、出産シーン、音声を使うときのポイント、単調にならないようにどのように工夫されているかなど、参考になるお話、そして貴重な交流時間を持てよかったです。

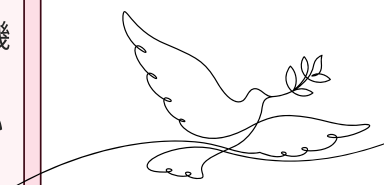
また活動していくうえでの疑問・災害時や学校側への対応、困ったこと等をメンバーで共有する場を東部の皆さんともて、有意義な時間でした。また東部にもお邪魔させてください！！

棕良子

東部メンバーの皆さんと会いたいと思っていた中、とても貴重な交流会でした。

改めて、今していることをじっくり見つめる機会になりました。

ととても広い島根県、どこに行っても熱い想いの仲間がいるのが嬉しいですね。



## 日々のバースデーの感想



大石麻早

バースデーをしていると、複雑な家庭も多く、今まで辛い思いをしてきたのかなと思うと、心が痛みます。だからこそ、一人一人が大切なかけがえない存在だということを、この講座を通して伝えられたらと日々思いながら、活動しています。全ての人が自分を、そして周りの人を大切にできる世の中になることを願い、その手助けができればと感じています。

田原恭子

子どもたちがバースデーの話を真剣に聞いてくれて、まっすぐに受け止めてくれる姿に、毎回心を動かされます。性と命がつながっていることを、子どもたちに伝えていく役割を担えることは、助産師として大切な仕事の1つだと改めて感じています。

大谷友美

自分が大切にされて産まれてきた存在である事を知り、また周りの友達もまた大切な宝物である事に気づき、自分も周りの人をも大切にできる人になって欲しいという思いで取り組んでいます。

お産に関わった子と会う機会はあまりないけど、時々このバースデーで取り上げてもらいましたと声をかけてもらい、元気に成長した姿を見られる事は本当に嬉しい事です。

小谷佳寿美

子ども達の真っ直ぐな眼差しや素直な反応が大好きで、いつも楽しく活動しています。また講座を通して助産師仲間と話ができるのも楽しみの一つです。

天野千穂

いつもは病院勤務でバタバタとしていますが、バースデーの時は、緊張しながらもゆっくりとその時間を楽しんでいます。

どちらの時間も助産師としてやり甲斐を感じながら大好きな時間です。

子ども達やそのお母さん、10年ぶりの再会もバースデーの醍醐味だと感じています。これからも、引き続きよろしくをお願いします。

天根さくら

益田に転勤してきてしばらくしたときに、バースデープロジェクトに病院勤務の助産師も活動的に参加していることを知りました。私もこの機会に活動してみたいとメンバーに加えてもらいましたが、なかなか活動に参加できず、結局保護者として見学に行きました。いのちの大切さや、自分を大切にすること、同じように周りの子も大切にすること、当たり前だけどなかなか教わらないことを、伝えるように伝えていく仕事の素晴らしさを改めて感じました。今度は伝える側として参加できたらと思います。

## 06 表彰受賞者からのメッセージ

### 内閣府特命担当大臣表彰・日本助産師会会長表彰

内閣府特命担当大臣表彰・日本助産師会会長表彰に寄せて  
中山正子

島根県助産師会の皆様には平素から大変お世話になっております。私事ですが助産師会から推薦を頂きまして、令和7年5月に日本助産師会会長表彰と、同年11月に健やか21内閣府特命担当大臣表彰を受賞させて頂きました。昨年は代議員として日本助産師会総会に参加して表彰式に出席できましたことは身の引き締まる思いになりました。このような栄誉ある賞を頂戴できましたのは、これまで導いてくださった上野会長をはじめ助産師会役員の皆様、日々支えてくださった諸先輩、同僚、後輩の皆様のお蔭と感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。

助産師資格を取得しましてから松江赤十字病院で15年間勤務いたしました。臨床の場では周産期医療や助産業務の知識や技術を学ばせてもらい、阪神・淡路大震災時は救護班として現地に向かうなど貴重な経験もさせて頂きました。その後、夫の転勤に伴い施設を退職しまして、飯南町委嘱助産師として4年間母子保健事業に携わりました。中山間地域の実情を知ることができ、私自身飯南町で子育てしながら地域で活動することのやりがいを感じました。

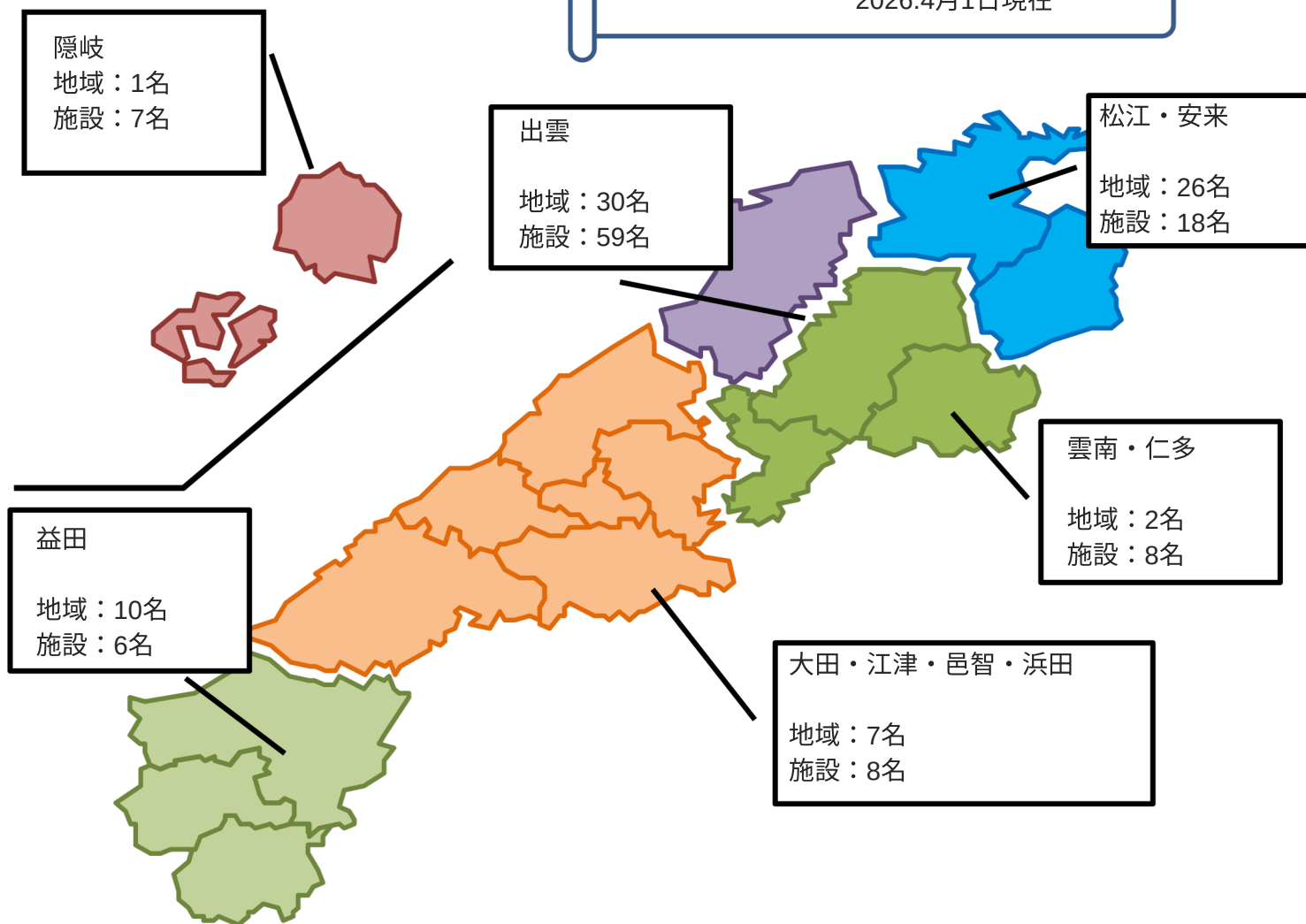
平成19年からは松江市委嘱助産師として、訪問事業や各種教室、産後ケア事業等を松江地区メンバーと共に務めております。産後ケア事業は8年目になりますが、改善を重ね、地域性を活かしたケア（温泉型産後ケア）も取り組みながら、時代の変化に合った支援の必要性を実感しています。また、助産師会のバースデープロジェクトの事務局として、行政や教育現場と連絡・調整を行い、チームの一員として活動を出来ていることは幸せに思っております。

今日に至るまで尊敬できる先輩方や仲間がたくさん励まされ支えて頂きました。まだ反省するばかりの私です。これからも、母子や家族、あらゆる世代の人々の心に寄り添い、施設や行政、教育機関や多職種との繋がりを大切にしながら、地域の活動を続けていきたいと思っております。そして、感謝の気持ちを忘れることなく、助産師として、人として自己を振り返りながら日々精進したいと思っております。最後になりましたが、皆様方のお力添えに心より御礼申し上げます。



島根健助産師会 会員数 182名

2026.4月1日現在



## 編集後記～

お忙しい中、原稿作成にご協力下さいました皆さま、誠にありがとうございました。

各地区において、それぞれの立場でご尽力されている会員の皆様に敬意を払うとともに  
より一層のご活躍と、ご多幸をお祈り申し上げます。

編集担当

菊次 弥生